

回収作業【自動停止】選択の場合

6. 運転切替スイッチを[自動停止]に選択した場合の操作方法を説明します。

- ①〈電源スイッチ〉が[OFF]になっていることを確認する。
- ②〈操作バルブ〉のノブを[①液回収]にする。
- ③〈運転切替〉スイッチを[連続運転]にする。
- ④ホース赤(吐出口⇄液側バルブ)のボールバルブを【開】にする。
- ⑤回収容器の液側バルブを【開】にする。
- ⑥システム側(被回収機器)のサービスポートのバルブを【開】にする。
- ⑦〈電源スイッチ〉を[ON]にする。
- ⑧〈スタートボタン〉を押す。

コンプレッサーが起動します。

初期の回収状態は液が回収容器に勢いよく流れ込み、赤のホースがわずかに揺れているのが分かります。チャージングスケールに載せて作動させた場合、回収容器の重量を表わす数値の上昇速度がかなり早くなっています。

ホースの揺れがなくなり、チャージングスケールの数値の上昇が緩やかになったところを見計らって[②ガス回収]に移ります。

- ⑨〈操作バルブ〉のノブを[②ガス回収]に回す。

回収終了時の停止方法を[自動停止]に選択する場合、まず[連続運転]モードから[スタートボタン]を押します。コンプレッサーを起動させたあとに[自動停止]を選択(押す)してください。[自動停止]モードが作動する原理は、回収が完了した時に、吸入口の内部にある圧力センサーがシステム側(被回収機器)で到達する負圧(−0.04MPa)を感知することでOFFになり、コンプレッサーが停止します。作業開始前の吸入口は、電磁弁が閉じて負圧なので電源回路はOFFの状態になっています。

液体がまだ混在していると異音とともに機器が振動する場合があります。ガス回収に移るのが早すぎたときは〈操作バルブ〉を再度[①液回収]に戻してください。

回収作業が進行するにしたがって、吐出ゲージの圧力が2.4~2.5MPaに、吸入ゲージの圧力が負圧域(真空)に近づいてきます。次第にチャージングスケールの数値が動かなくなります。吸入ゲージの針が完全に負圧域に入り、暫らくして安定した状態になると作業は終盤に入ります。

[自動停止]モードを選択した場合、システム(被回収機器)の規模と回収量によっては、吸入ゲージの針が負圧域に入り真空状態−0.04MPaに達してからコンプレッサーが停止するまで、ある程度の所要時間がかかります。

吸入ゲージ側の圧力が−0.04MPaになると圧力センサーが作動し、[回収完了]ランプ(緑)が点灯すると同時にコンプレッサーが自動停止します。

- ⑩〈操作バルブ〉のノブを[③セルフクリアリング]に回す。

機器内のフロン液・ガスの流れる経路が変わり、キューンという開放音がします。間をおかずに次の〈スタートボタン〉を押してください。

- ⑪〈スタートボタン〉を押す。

[③セルフクリアリング]に回して開放音がすると間をおかずに〈スタートボタン〉を押してください。コンプレッサーが再び起動します。

吸入ゲージの圧力が負圧(マイナス)から正圧(プラス)になり、再び負圧域になると「回収完了ランプ」(緑)が点灯し、コンプレッサーが自動的に停止して完了です。